

入学試験過去問題
数 学

東京大学（文科）

対象年度：2022年

試験時間：100分

問題数：4問

配点：80点

計 算 用 紙

(切り離さないで用いよ。)

第 1 問

a, b を実数とする。座標平面上の放物線 $y = x^2 + ax + b$ を C とおく。 C は、原点で垂直に交わる 2 本の接線 l_1, l_2 を持つとする。ただし、 C と l_1 の接点 P_1 の x 座標は、 C と l_2 の接点 P_2 の x 座標より小さいとする。

- (1) b を a で表せ。また a の値はすべての実数を取りうることを示せ。
- (2) $i = 1, 2$ に対し、円 D_i を、放物線 C の軸上に中心を持ち、点 P_i で l_i と接するものと定める。 D_2 の半径が D_1 の半径の 2 倍となる時、 a の値を求めよ。

計 算 用 紙

(切り離さないで用いよ。)

第 2 問

$y = x^3 - x$ により定まる座標平面上の曲線を C とする。 C 上の点 $P(\alpha, \alpha^3 - \alpha)$ を通り、点 P における C の接線と垂直に交わる直線を l とする。 C と l は相異なる 3 点で交わるとする。

- (1) α のとりうる値の範囲を求めよ。
- (2) C と l の点 P 以外の 2 つの交点の x 座標を β, γ とする。ただし $\beta < \gamma$ とする。 $\beta^2 + \beta\gamma + \gamma^2 - 1 \neq 0$ となることを示せ。
- (3) (2) の β, γ を用いて、

$$u = 4\alpha^3 + \frac{1}{\beta^2 + \beta\gamma + \gamma^2 - 1}$$

と定める。このとき、 u のとりうる値の範囲を求めよ。

計 算 用 紙

(切り離さないで用いよ。)

第 3 問

数列 $\{a_n\}$ を次のように定める。

$$a_1 = 4, \quad a_{n+1} = a_n^2 + n(n+2) \quad (n = 1, 2, 3, \dots)$$

- (1) a_{2022} を 3 で割った余りを求めよ。
- (2) $a_{2022}, a_{2023}, a_{2024}$ の最大公約数を求めよ。

計 算 用 紙

(切り離さないで用いよ。)

第 4 問

O を原点とする座標平面上で考える。0 以上の整数 k に対して、ベクトル \vec{v}_k を

$$\vec{v}_k = \left(\cos \frac{2k\pi}{3}, \sin \frac{2k\pi}{3} \right)$$

と定める。投げたとき表と裏がどちらも $\frac{1}{2}$ の確率で出るコインを N 回投げて、座標平面上に点 $X_0, X_1, X_2, \dots, X_N$ を以下の規則 (i), (ii) に従って定める。

(i) X_0 は O にある。

(ii) n を 1 以上 N 以下の整数とする。 X_{n-1} が定まったとし、 X_n を次のように定める。

- n 回目のコイン投げで表が出た場合、

$$\overrightarrow{OX_n} = \overrightarrow{OX_{n-1}} + \vec{v}_k$$

により X_n を定める。ただし、 k は 1 回目から n 回目までのコイン投げで裏が出た回数とする。

- n 回目のコイン投げで裏が出た場合、 X_n を X_{n-1} と定める。

(1) $N = 5$ とする。 X_5 が O にある確率を求めよ。

(2) $N = 98$ とする。 X_{98} が O にあり、かつ、表が 90 回、裏が 8 回出る確率を求めよ。

計 算 用 紙

(切り離さないで用いよ。)

計 算 用 紙

(切り離さないで用いよ。)

計 算 用 紙

(切り離さないで用いよ。)

計 算 用 紙

(切り離さないで用いよ。)